

熊本市南区の塚原仮設団地の集会所「みんなの家」で4月5日、花まつりが行われた。熊本教区が、仮設住宅で暮らす被災者に寄り添いたいと開く「ビハーラサロン（お茶飲みサロン活動）」の一環。

僧侶7人が訪ね、集会所でお釈迦さまのご誕生を描いた紙芝居を上演、屋外に花御堂を設置した。住民たちは、外にいた春休み中の子どもたちに「お釈迦さまと一緒に甘茶をかけよう」と呼びかけた（写真）。笑顔で近寄ってきた松本舞穂さん(10)は「甘茶を初めて飲んだ。不思議な味だった。おばあちゃんたちが楽しそうであれしかった」と話した。

同仮設の入居者でサロンに参加した石原良子さん(75)は「温かい気持ちいっぱいの花まつり。子どもたちと一緒に甘茶をいただき、楽しいひとときだった」と話した。

「お茶飲みサロン活動」は、熊本教区が昨年12月から実践運動として始めた。次号でその様子を紹介する予定。

花まつり ひととき、笑顔に

